

高校における学年集団の構成について

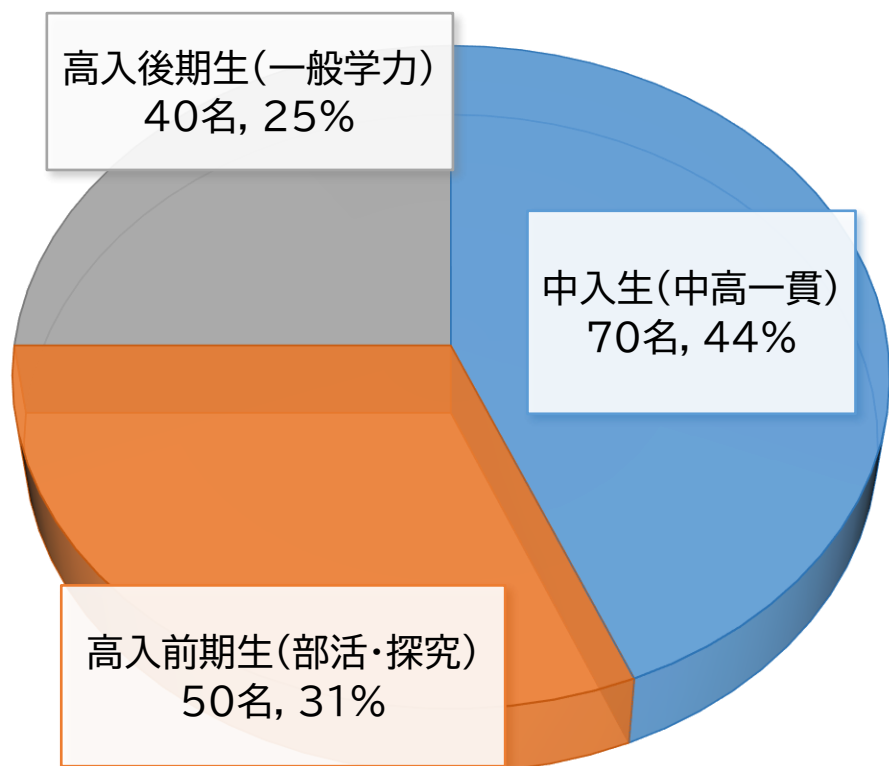
～指定部活動について～

R8.8.28

第3回長野市立長野中学校・長野高等学校
改革検討委員会資料

1 生徒学習集団の構成の状況

1学年160名の生徒の内訳
(令和8年度入学生)



生徒の意識

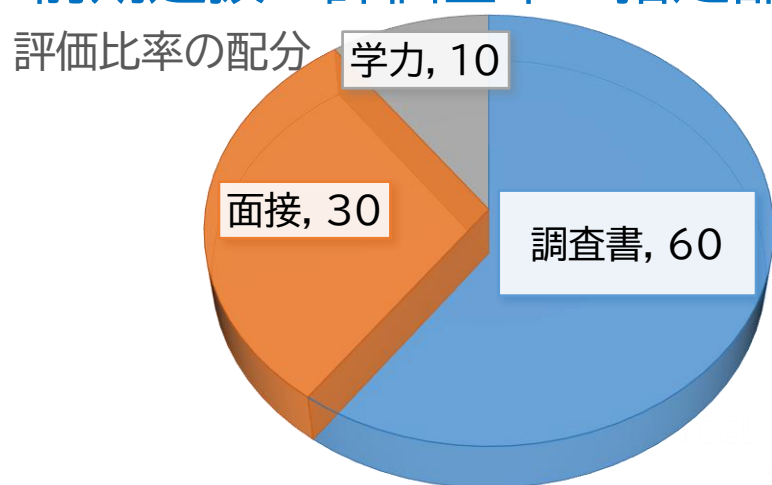
- 意識のギャップ
探究・学力志向層(中入生)と
スポーツ志向層(高入前期生)が混在
- 中入生の意見
 - ・「スポーツ組が偏差値を下げてい
る」との懸念や先取り学習の停滞感
 - ・高校における授業で対話型授業が
少ないこと
 - ・進学にともなう探究活動の分断

2 高校設立からの募集定員の経過と構成の変化

指定部活導入の背景と定員変遷

年代	定員	経過等
令和元年度以前	前期80名 後期80名	平成29年4月市立長野中学校設立
令和2年度 (中学併設)	中入生70名 前期35名 後期55名	中入生が初めて高校に進学 指定部活制度の導入 部活強化目的で指定部活枠(前期35名)を導入
令和7年度以降	中入生70名 前期50名 後期40名	前期募集を50名(定員の32%以内)へ拡大 指定部活枠に加え、探究学習実績・意欲に係る枠を新設

前期選抜の評価基準と指定部活



市立長野が指定する5つの部活動

- ・サッカー部
- ・男子バスケットボール部
- ・女子バスケットボール部
- ・陸上競技部
- ・スピードスケート部

3 指定部活動の強み・課題と役割

強み

○市立長野独自のブランド確立
「スポーツだけなら私立、勉強もできるから市立長野」という高い評価を獲得

○学校の活性化
県大会上位や全国を狙える活躍が学校全体に活力や活気を醸成

課題

○「文武両道」の負荷
「勉強もできる」という期待に対し、スポーツ重視層への学習サポートが十分でない

○指導体制の維持
県の教員人事異動に依存しており、専門指導者の継続確保が困難

役割

○学校の魅力維持・向上
急激な少子化と授業料無償化による私立志向の強まりにより公立高校を志願する生徒が減少する中、市立長野におけるスポーツ機会の喪失を防ぎ学校の魅力を維持・向上させる